

はじめに

平成26年12月、県教育委員会では、社会経済の急速なグローバル化の進展を踏まえ、今後の10年を見据えた広島県教育の展開に係る方針をまとめた「広島版『学びの変革』アクション・プラン」を策定いたしました。

このプランにおいては、これからの学校教育は、これまでの知識ベースの学びに加え、これからの社会を生き抜くために必要な資質・能力の育成を目指した「主体的な学び」を促す教育活動を積極的に推進することを示しています。

今後は、これまで以上に、「主体的な学び」を促す教育活動に取り組み、児童生徒が、自ら課題を見付け、知識・技能を活用して、その課題をよりよく解決していく学習を創造していく必要があります。

こうした中、本報告書の第1章では、新たに、教科調査と児童生徒質問紙調査、学校質問紙調査を基に、児童生徒が、自ら課題を見付けたり、課題解決の過程において知識・技能を活用して思考・判断・表現したり、他者と協働して学んだりする活動と学力との関連について分析をしました。

また、これまで同様、教科調査における児童生徒のつまずきや、学力が向上している児童生徒及び学校の意識や実態等についても分析しています。第2章では、教科調査において課題のあった問題について、その問題のねらいや誤答の状況等に解説を加え、指導のポイントを示しています。第3章では、今年度の調査で成果のあった市町の取組事例を紹介しています。

各学校においては、学校全体としての組織的な取組を進めるに当たり、本報告書を参考に児童生徒一人一人の分析・考察を深めるとともに一層の授業改善を進め、基礎的・基本的な知識・技能に加え、習得した知識・技能を実生活や学習の様々な場面に活用する力の育成を図っていただきたいと考えております。

最後に、本調査の実施、分析、報告書作成に御尽力いただきました関係者の皆様に、深く感謝を申し上げます。

平成28年1月